

週刊為替市況見通し

2010/2/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京ドル/円(銀行間)	90.25	91.06	88.90	89.53	88.00~90.20

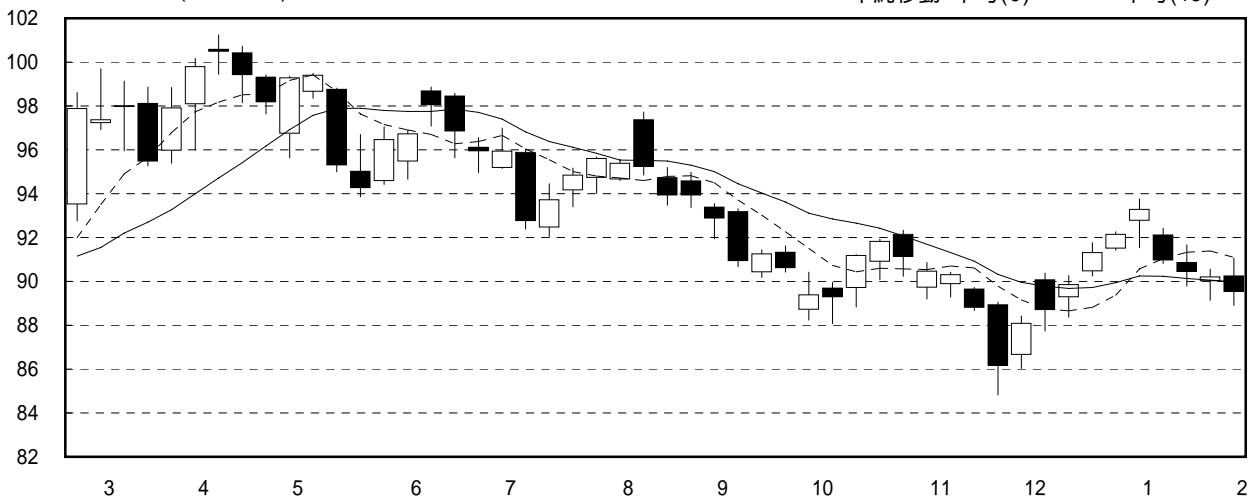
【今週のポイント】

	予想	前回
2/10 米) 12月米貿易収支	- 358億ドル	- 364億ドル
2/11 中) 1月中国 PPI、CPI		
2/11 米) 米新規失業保険申請件数	46.5万件	48万件
2/11 米) 1月米小売売上高	+ 0.3%	- 0.3%
2/12 米) Q4 独 GDP 速報値(前期比)	+ 0.2%	+ 0.7%
2/12 米) 2月米ミシガン大消費者信頼感指数速報値	75.0	74.4
2/13~19 中華圏は旧正月		

先週のドル円は91.25円を高値に90円割れを経て88.52円まで失速、89.21円で越週した。ユーロドルは1.4025ドルを戻り高値に下落。1.3583安値を経て1.3674ドルでの越週となった。2009年に積み上がったユーロロングのポジション調整の動きと見られ、12月高値からの調整が続いている。先週はこれに高金利通貨の豪ドル、NZドルの下落もありクロス円での円高圧力を受け、ドル高と円高が同時進行する展開となった。ギリシャの財政収支悪化から欧州経済圏の停滞が見込まれ、ポルトガル、スペインに続くイタリアの財政悪化見通しもあり、ユーロ買い回転が起きて来ない。ユーロ買いの過去ポジションの清算が進行している。為替市場のバランスは、ドル全面高に変わりつつある。円はドル高もあり中立化しやすく、しばし保合に入ることありうる。しかし、ユーロ安を背景にクロス円下落圧力がかけられ始めると、再度円高方向のトライもありうる。ユーロ安、円高の流れが表面化しやすい。90.20~90.40円を戻り限界に円高圧力が潜在している。

東京為替 週足 (YEN/US.\$) 2009/02/27-2010/02/05

----- 単純移動 平均(6) ———— 平均(13)



当レポートは情報提供を目的としており、お取引の判断はご自身で行ってください。

週刊貴金属市況見通し

2010/2/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京金	3,151	3,272	3,062	3,083	2,950 ~ 3,100
東京銀	47.5	50.3	44.3	44.7	42.0 ~ 46.0
東京白金	4,367	4,599	4,223	4,234	3,900 ~ 4,300
東京パラジウム	1,210	1,290	1,125	1,129	1050 ~ 1180

【今週のポイント】

貴金属	・ 為替相場、米国株価、債券相場
-----	------------------

【金】

先週の金相場は、高値 1124.45 ドルを経て 1100 ドル割れで失速反落。1043.75 ドルの安値を経て、1064.95 ドルで越週した。ユーロドルは戻りの 1.40 ドルでとめられてしまい失速反落。欧州圏でのギリシャ等の財政支悪化を背景に、2009 年から積み上がったドル売りユーロ買いポジションの解消が進展した。また、豪ドル、NZ ドルが下落し始めるなど、これも既存ポジション解消でドル高となっている。ユーロは、この先 1.35 ~ 1.32 ドルまでの調整下落も念頭で。金相場は 200 日移動平均が 1036.40 ドル。足元は 1030 ドルを下値に調整に入ることが考えられる。東京は 2900 ~ 3150 円で調整底を模索か。ユーロ円等のクロス円主導で円高圧力がしばし残存。旧正月を前にして、アジア時間の動きは次第に閑散化も。



【銀】

NY 3 月限は高値 1695 セントから反落、週末安値 1465 を経て 1483 セントで越週した。1600 セント割れで地合い悪化。中国の金融引き締め転換と米国での金融規制安の提言をきっかけに銅相場も高値から調整下落となっている。いまだ下げ止まり兆候なく、調整下落を継続。下値確認が先行しよう。1400 ~ 1300 セントまでの下落もありうる。東京は 47 円割れで地合い悪化。目先は 45 円以下の下値抵抗を試す。



週刊貴金属市況見通し

【白 金】

先週のNY 4月限は 1594 ドルを戻り高値に反落した。1550 ドル割れで続落となり、安値 1452 ドルを経て 1475.10 ドルで越週した。目先は 1480~1500 ドルを戻り高値に調整下落に入ると思われる。東京は目先 3900~4300 円で推移か。1月上旬に見られたETF中心の短期買いが一巡し、一旦押し調整に入る。中国アジアの実需が下値を支える見通し。触媒向け需要の停滞を宝飾需要の堅調がメインの需要牽引ファクター。米国市場でのETF取引開始は短期需給をタイト化させている。売りは利食い売り主体で。貴金属の中では最も地合が強い。



【パラジウム】

NY期近は 448.50 ドルの戻り高値を確認し反落した。安値 380.05 を経て 398.25 ドルで越月した。金銀に遅れてPGMも調整に入る。目先は 400 ドルの攻防次第では、380~350 ドルの下値をとりに行く可能性も。白金に対する割安感があり買われていたが、目先は調整値固めが先行しよう。東京は 1200 円割れで地合い悪化、1100 円攻防経て 1000 円へ向けた下押し場面も。



週刊原油・石油製品市況見通し

2010/2/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京原油	41,730	44,660	41,140	41,480	38,000～41,000
東京ガソリン	51,120	53,910	50,640	51,030	48,000～51,000
東京灯油	48,390	50,940	47,620	47,900	45,000～48,000
東京軽油					

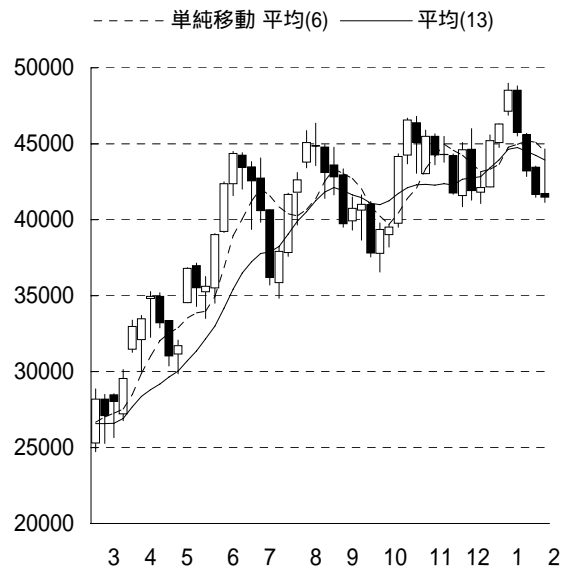
【今週のポイント】

原油	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国石油在庫 ・ NY 暖房油の推移
石油製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ W T I 原油、ドバイ原油の推移 ・ 為替相場

【原油】

W T I 3 月限は先週は高値 78.04 ドルから反落した。安値 69.50 ドルを経て 71.19 ドルで越週した。いまだ米国需給に改善は見られず石油製品需給に強さはない。クラック（対原油価格差）は 6～9 ドル台の低位で推移しており、いまだ景気後退相場を展開中。これから春先のドライブシーズンまでには時間がかかる。目先は 70 ドル割れの安値を指向して行く展開か。ドル高傾向もあり、引き続き調整色が強まりそうだ。

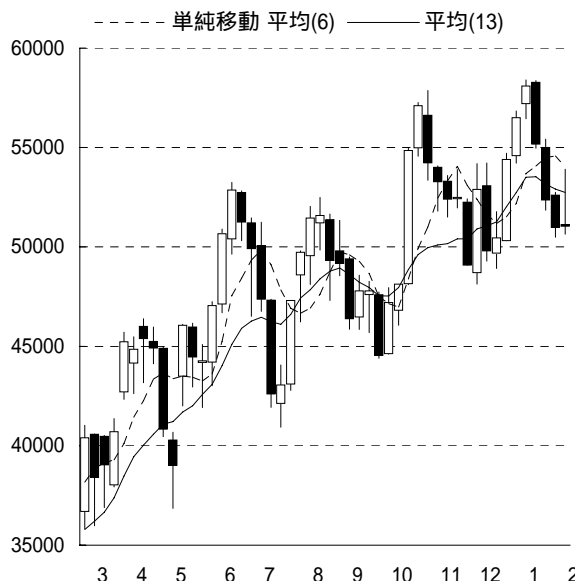
東京原油 先限 週足 (円/1kl) 2009/02/27-2010/02/05



【ガソリン】

東京市場は、目先はW T I の軟化を映して戻りに重さあり。常態的にサヤ滑り傾向が強いものの、ここにきてW T I 反落を映して先限を主体に下落。拡大していた順ザヤ幅が縮小するなど地合に変化あり。京浜現物市場は、2 月渡しへ移行する中で、円高進行と原油価格低下で調整余地を意識。3 月入りの在庫積み上げ期までの季節替わりの過度期にあり、灯油からガソリンへの販売主体の交替に伴う元売り買い後退に、W T I の下落と円高が合致した軟調地合い。

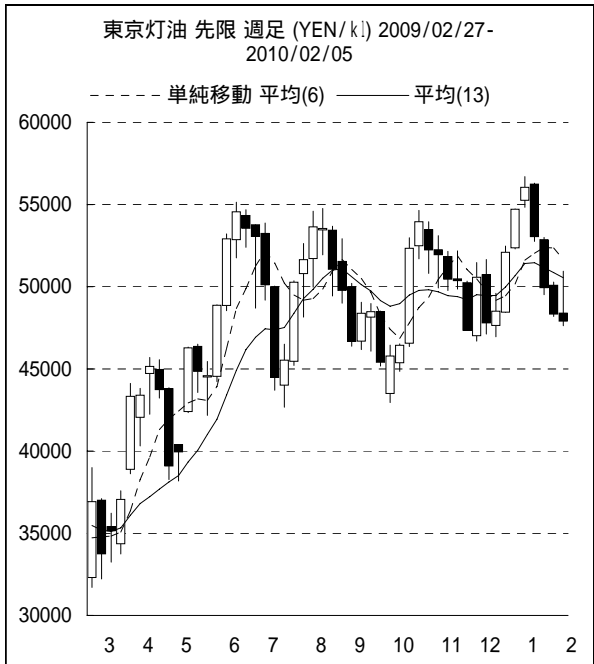
東京ガソリン 先限 週足 (YEN/kl) 2009/02/27-2010/02/05



週刊原油・石油製品市況見通し

【灯油】

京浜は足元、冬季需給期を経て次第に販売ピーク明けへ。当限が下げ渋りつつ、販売期明け後の3月限以降は次第に先安タイミングがWTI下落と一致。さらに次第に気温上昇を映して現物調達意欲が後退しており、調整下落傾向が続く見通し。2月半ばには京浜での販売最盛期はピークアウトへ。次第に売買の中心はガソリンへ。



【軽油】

京浜現物市況は灯油含め中間留分の需給が緩和気味で次第に上値に重さも。需要後退から下落圧力が強まり始めた。

週刊大豆・トウモロコシ市況見通し

2010/2/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

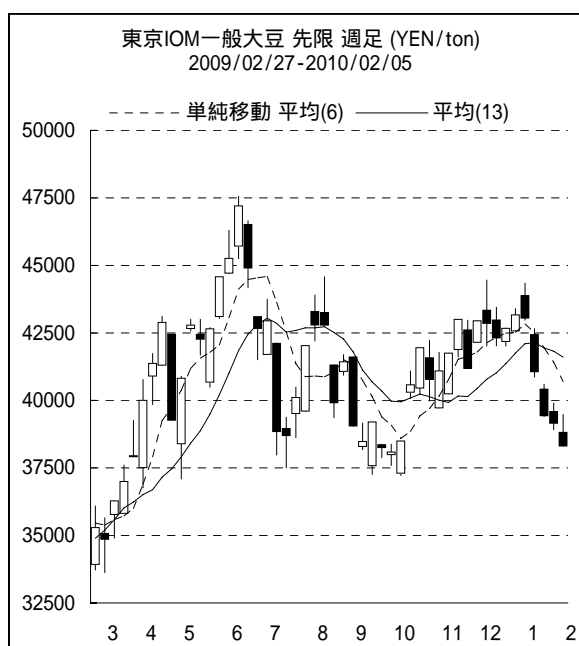
	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京一般大豆	38,820	39,480	38,310	38,310	37,000～40,000
東京NON-GMO大豆	47,310	47,310	45,610	45,880	44,000～48,000
東京とうもろこし	19,930	20,520	19,830	20,010	18,700～21,000

【今週のポイント】

大豆	<ul style="list-style-type: none"> 米農務省需給報告（10日） 米国農家の作付計画
トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 米農務省需給報告（10日） 米国農家の作付計画

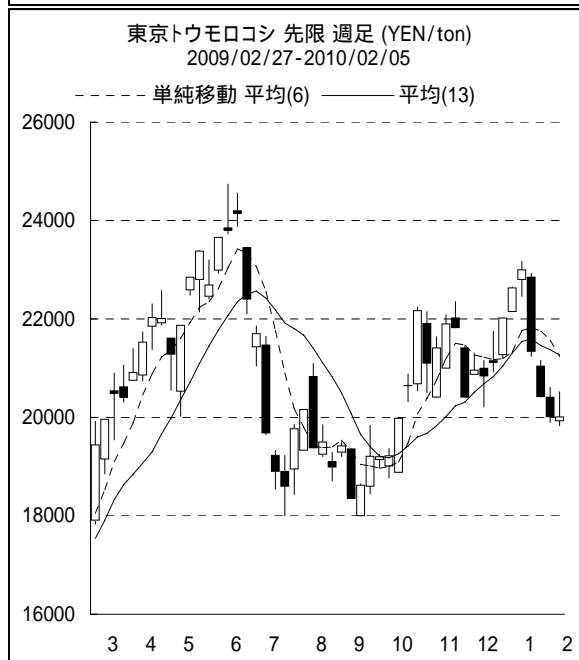
【大豆】

先週のシカゴ大豆は一時900セントまで下げる場面もあったが維持し、920セントを中心に保合となった。東京一般大豆では39,000円前後で下げ渋り、NON大豆は46,000円台で下げ渋りとなった。10日発表の需給報告では、2009/10年度の米国の需要、南米の生産高の修正があるかが注目点となるが、南米では生育が順調で、大幅増産はほぼ織り込み済み。市場の関心は次第に米国の2010年作付面積と生産高予想に向かっており、米農務省は2009年11月のデータを基準として2010年米国大豆生産を32億3000万ブッシェルとの見通しを示しているとされる。3月の作付意向面積発表までは、下値を固める動きが継続か。



【トウモロコシ】

先週のシカゴトウモロコシは370セントを抵抗に続落し一時350セントを割り込んだ。東京トウモロコシは20,000円をわずかに割り込む場面もあるものの、下げ渋っている。1月の需給報告で米国の生産が大幅上方修正され急落、370セント割れからは下げ足を弱めるものの、戻りは重くジリ安の展開が続いている。10日に発表の需給報告では生産、需要ともに修正の可能性があるものの、南米での生産も順調で目立った供給不安はない。米国の燃料政策によってエタノール需要の見通しに変化が出れば、需要の変動要因となる。3月の作付意向面積発表までは、材料難のため、保合が続くか。



週刊粗糖・コーヒー市況見通し

2010/2/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京粗糖	42,650	43,360	41,500	42,730	41,000 ~ 44,000
東京アラビカコーヒー	20,700	21,760	20,700	21,100	20,000 ~ 22,000
東京ロブスタコーヒー	15,010	15,010	14,910	14,910	14,000 ~ 16,500

【今週のポイント】

粗糖	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドを始めアジア圏の輸入動向 ・ 2010/11 年度の増産見通し
コーヒー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラジルの表作 ・ 商品指数と為替の動き

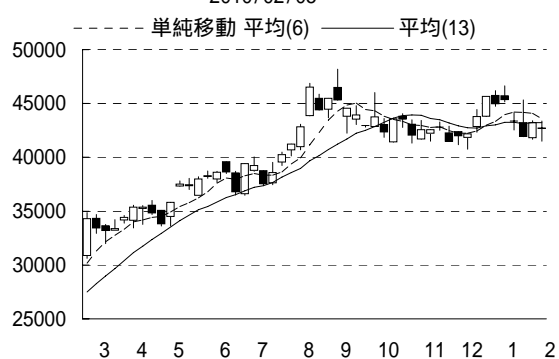
【粗糖】

先週のNY粗糖は30セントを抜けきれず急反落し、週末には一時26セントを割り込んだ。インドを中心に輸入需要が強い状況が続くが、30セント大台の重さと、ドル高、レアル安などが圧迫となった。2009/10年度の世界砂糖需給については、独調査会社F.O.リヒトは800万トンの供給不足、砂糖商社ザーニコフは1350万トンの不足を見込んでいる。ブラジル中南部で圧搾のシーズンを迎える4月以降は足元の逼迫感が緩和される可能性はあるものの、2年連続の供給不足と歴史的な高値で、消費国の在庫が下がっていることもあり、調整一巡後反発も。東京期先は動きにくい42,000円前後の保合継続か。

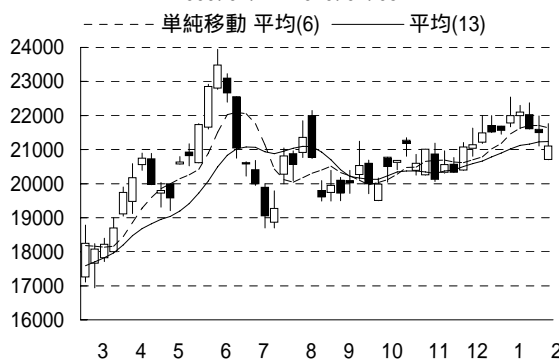
【コーヒー】

先週のNYアラビカは135セント回復から反落し、130セントを大きく割り込んで引けた。東京アラビカは21,000円を中心とした保合へ値位置を切り下げるが下げ渋り。中南米の高品質アラビカの減産で供給不足懸念が強く、支持要因となっていたが、北半球の需要期が終盤に向かうほか、ドル高、レアル安、ブラジルの表作が圧迫となっている。大幅反発に向かうだけの新規材料もないが、コロンビアでは2010年の生産も当初の予想から下方修正する動きもあり、更に売り込む材料にも乏しい。為替市場や商品指数を眺めながら、下値を固める展開か。

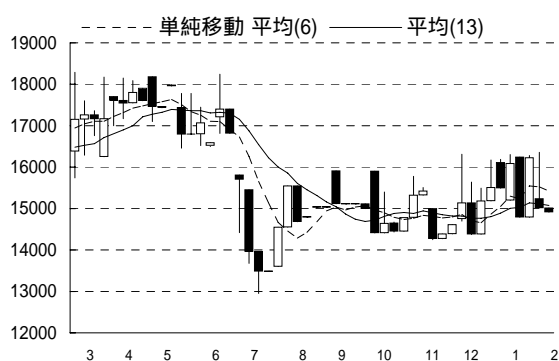
東京粗糖 先限 週足 (YEN/ton) 2009/02/27-2010/02/05



東京アラビカコーヒー 先限 週足 (YEN/69kg) 2009/02/27-2010/02/05



東京ロブスタコーヒー 先限 週足 (YEN/100kg) 2009/02/27-2010/02/05



週刊ゴム・小豆市況見通し

2010/2/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京ゴム	275.4	287.5	267.2	268.1	240.0 ~ 288.0
東京小豆	11,100	11,270	11,000	11,110	10,000 ~ 11,500

【今週のポイント】

ゴム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式市場の軟調 ・ 主要国の自動車販売台数
小豆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年の作付計画

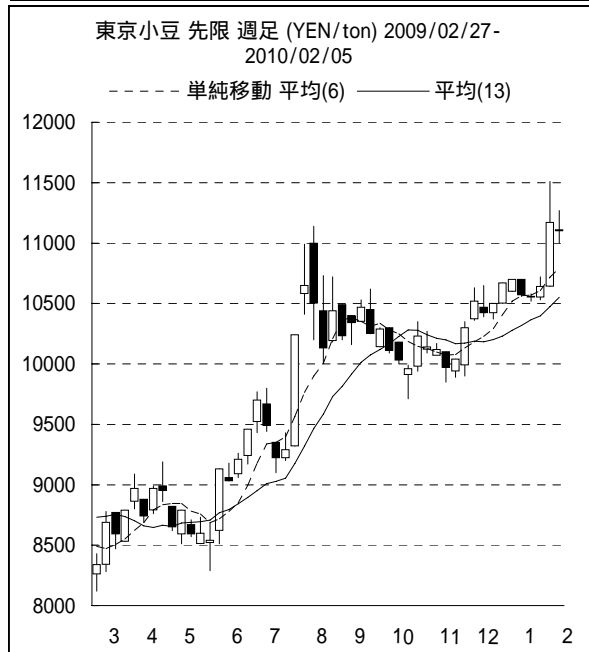
【ゴム】

先週の東京ゴムは、戻りが290円に届かず反落、270円を割り込んで越週した。中国の金融引き締めと、欧州での財政悪化懸念、米国の新金融規制案の発表を受け、世界的に株式市場が軟調となり、ゴム市場も急反落となっている。1月の新車販売台数は、日本が軽自動車含むで前年同月比21.5%増、米国が前年同月比6.3%増と回復傾向。米国、中国、日本でのトヨタの大規模リコールの影響が懸念される面もあるが、全体としては他社の生産・販売増によるカバーが考えられる。ゴム市場は昨年7月以来、150円以上の上昇に対し調整入り、下値の目安は260円を割り込むと240円へ。



【小豆】

先週の東京小豆 11,000円を支持に11,200円前後で小動きとなった。7月限への限月移行で急伸、踏み上げ一巡で昨年来高値の11,510円を達成後反落でも、値位置を切り上げている。昨年の北海道産小豆の減産で国産小豆の需給が締まっているほか、輸入物の中心である中国産も国内価格上昇傾向にあり、支援となっている。1月末時点の消費地在庫は12万3269袋(1袋=30kg)で前月から1万9961袋増。今後は北海道の作付見通しが注目されるが、市場は11,000円を支持に固め、長期的には上昇傾向か。



〔商品先物取引に係る留意点について〕

2010年2月1日現在

商品取引員 日本商品先物取引協会会員

岡藤商事株式会社

・取引証拠金について

商品先物取引は委託に際して取引証拠金等の預託が必要になります。最初に預託する取引本証拠金の額は商品により異なり、2010年2月1日現在、最低取引単位（1枚）当り最高165,000円、最低18,000円です。ただし、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。またその額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。

・手数料について

商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なり、2010年2月1日現在、最低取引単位（1枚）当り最高9,135円、最低714円です（片道・消費税込・先限ベース）。

※ 取引証拠金・手数料については、銘柄・約定値段等によって変わりますので、この書類の作成日以降の額はその都度担当者へご確認ください。

・商品先物取引のレバレッジについて

商品先物取引による取引の額は、最初に預託する取引本証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、2010年2月1日現在、取引本証拠金の額の約13倍から約31倍の額にもなります（先限ベース）。

・商品先物取引のリスクについて

商品先物取引は相場の変動によって損失が生ずるおそれがあります。また、取引本証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その損失額は預託している取引証拠金等の額を上回ることがありえます。

◆ お取引に関するご相談は

① 当社お客様相談窓口：東京都中央区新川 2-12-16 TEL 03-3552-1203

② 日本商品先物取引協会相談センター本部：東京都中央区日本橋小網町 9 番 4 号

TEL 03-3664-6243

◆ 当社企業情報に関するディスクロージャー資料は当社の本・支店、日本商品先物取引協会の本部・支部および HP で閲覧できます。